

価値と資本の探求－環境、教育、地域の可能性を考える。

小野宏哉

科学・技術が進歩する豊かな社会で、個人と社会が尊厳を以て存在できるのは幸運である。驚異的なスピードで進歩する科学・技術の中では、環境問題が悪化する懸念と人間社会が進歩・変質する予感の間を揺れる。社会の進歩によって持続可能な開発も一里塚に過ぎない。

環境経済学はグローバル化時代に確立し、資源経済学をも含む。いずれ、宇宙空間の汚染や火星の水資源問題を自然に対象に受け入れる可能性もある。

ゼミでは環境問題に限らず、好きなテーマに挑戦して欲しい。環境問題の構造はステレオタイプ化され、環境経済学を使えば問題が分かり易い。しかし、ゼミ生は自由にテーマを選択し、私が力の及ぶ限り指導をする。共に学ぶ気持ちのあるものを歓迎する。

同じ関心を持つ学生が世界から集まることは当たり前になった。皆さんは、ゼミでの経験を糧に、まず自分が幸せになり、そして広く世界の発展に貢献できるように、知識、能力、技術を磨いてほしい。

